

～シロアリ発見のチャンスは今月！～

ゴールデンウィークも終わり、季節は夏へと向かうこの時期は草花の生育具合も早くなります。

ちょうどこの頃、厄介な生物が唯一、顔を出す時期です。シロアリです。

～日本に生息する主要なシロアリ～

<ヤマトシロアリ>

北海道北部を除く、日本全国に生息するシロアリです。約1万～3万匹程度のコロニー（巣）を形成、加工した巣は作らず、被害箇所が巣を兼ねています。真夏と真冬は動きが鈍りますが、冬眠はしません。



4月中旬から6月にかけて、翅をつけて飛び立ちます（群飛）。

群飛の時間は温暖多湿の（例えば、雨が降ったあとのパツと晴れた時など）昼間に飛び立ちます（数千匹が一気に飛び立つことも！）

基本的に水を運ぶ能力が低いので、被害は2階の床面ぐらいまでと言えます。

<イエシロアリ>

千葉以西の温暖な地域で生息する、最も加害の激しいシロアリです。

海岸線を中心に増加傾向があり、100万匹以上の巣を形成することも。水を運ぶ能力もあるので、ヤマトシロアリに

比べて被害が甚大になります。塊状の巣を形成して、巣から蟻道を伸ばして加害をします（その長さは100m以上になることも！）

群飛は6月～7月の夕方から夜間にかけて飛び立ち、光行性があるので街灯や家の蛍光灯に大量に舞います。



<アメリカカンザイシロアリ>

元々は外来種で、輸入家具や輸入木材・荷造材から侵入したものと考えられています。最大の特徴は、乾いた木材で生息できる点で、持ち込まれた箇所で増殖。軍団で行動するというよりは小規模でゲリラ的に活動し、群飛も小規模及び不定期なので、駆除は困難を極めます。

生息範囲は最初に侵入した家屋等の付近で、地面からの侵入ではなく、羽蟻が飛びついた木材に直接侵入することが多いので、予防処理を行うことは不可能に近い。

生息している箇所もわかりにくい上に、たとえ完全駆除に成功したとしても、隣の発生家屋から再度侵入してしまうと、再び加害を始めてしまう為、他のシロアリのような施工保証をつけることができない。



～予防処理、していますか？～

通常、新築住宅を建築する際は「シロアリ防蟻処理」が標準である事が多いですが、5年～10年もすると、施工処理の“保証”が満了してしまいます。前述の通り外来種のシロアリは除きますが、この処理を行っていないと、被害が出て増大するおそれがありますので注意が必要です。ところで、この防蟻処理、どのような工法があるのかお伝えしたいと思います。

～土壌処理～

ヤマトシロアリやイエシロアリは、一般に地中を通して建物内に侵入してくることが多いので、建物の基礎の内側や束石の周囲、その他シロアリが通過する恐れのある土壌を薬剤で処理することが、シロアリの侵入を防止する最も効果的な方法です。

通常は、土壌表面に薬剤を散布し防蟻層を形成します。



～木部処理～

木材表面に薬剤を噴霧器を用いて吹き付け処理するか、又は刷毛等で塗布する方法と、木材や壁体に穿孔して薬液を注入する方法です。

新築建物の木部処理は、通常、地面から1mまでの部材、浴室回り部材、洗面所や台所等の水回り部分の木材を処理します。また、木口、切り欠き、ボルト穴、仕口、接合部、コンクリート接触面等は特に入念な処理が必要です。



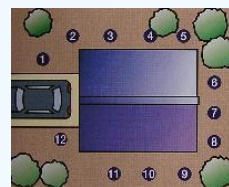
床下に潜れない場合は、壁面や柱、コンクリートなどにドリルで穴を開け、中に薬剤を注入します。薬剤注入後はセメントや木栓で穴を閉じます。

～ベイト工法～

シロアリの駆除剤を混入した餌（ベイト剤）をステーションと呼ばれる容器に入れ摂食させ、シロアリの集団を死滅させる方法です。

ステーションの設置は基本的に、建物の周りに数メートル間隔で設置します。

必要に応じて床下への設置もします



～シロアリが不安、お困りではありませんか？～

私たちは、土地や建物の仲介のみではなく、声かけ頂ければ、何でもお役に立てます！

～土地・建物のよろず屋～

アドバイスや
施工業者をご紹介します！

マルヒロ不動産(株)

名古屋市中村区横前町109番地
TEL: 052-413-4628



<http://maruhiro2103.co.jp>